

中間評価報告書

福原 陵子

IVY カンボジア プロジェクトマネージャー

I. はじめに

本報告書では、「持続可能な農業による農村開発への女性の参加」に関するプロジェクトの内部中間評価の結果報告をする。評価調査の内容は、村の人々への中心グループインタビューや、既存の資料、文献の再確認などを行うことにより、量よりも質を重視した。調査は、IVY スタッフにより 2005 年 2 月と 3 月に行われた（評価チームのメンバーは、添付資料 I を参照）。IVY スタッフに加え、JICA 職員も調査結果の分析に参加した。

評価の目的

中間評価の目的は、IVY スタッフに、過去 18 ヶ月間の活動を振り返り、実際の活動がプロジェクトの目的や目標に沿っていたか、また、どの程度沿っていたかを調査する機会を与えることである。

中間評価の目標

- 1) プロジェクトの関連性、効果、能率、期待される影響力、持続性を査定する。
- 2) プロジェクト開始から最初の 18 ヶ月間の活動を査定する。
- 3) 予想していた結果と実際の結果に差があった場合、その理由を分析する。
- 4) 次の 18 ヶ月間のプロジェクト実施に向けて、提案と調整を行う。
- 5) プロジェクトのメンバーに、評価の手順に慣れる機会を与える。

II. 背景

1. プロジェクトの概観

IVY は、農林水産省の協力を得て、JICA による JICA-NGO パートナシッププログラムの下、2003 年 7 月に「**女性参加による持続可能な農業 (Sustainable Agriculture by Female Participatory Approach)**」と題された 3 年間のプロジェクトを始めた。このプロジェクトは、農業者の生活水準を改善するために、農業者団体を結成することを目標とした。2004 年 1 月から、プロジェクト開始から初めの 6 ヶ月間で学んだことを考慮し、プロジェクトの構想と範囲を内部で厳密に見直すようになった。その結果、2004 年 4 月には、プロジェクト計画とプロジェクト概要表が完全に改訂された。

新しく始められたプロジェクト「持続可能な農業による農村開発への女性の参加」は、プロジェクト対象者の持続可能な農業に関する知識と技術を高めることや、村の女性組合を結成、運営することにより、村民同士の繋がりを広げ、コミュニケーションをとりやすくし、それにより、村民が他の村民に持続可能な農業を勧め、地域開発に従事する

手助けをすることを目標としている。本プロジェクトは、スバイリエン州の2つの地域の14村において、主に成人女性を対象としたものである。

2. プロジェクト対象地域の状況

スバイリエン州は、カンボジア国内で最も小さい州の1つである。2003年の **Seila** プログラムと農林水産部門のデータによると(注1)、1平方キロメートルあたり178人という人口密度は、国内平均の3倍であるため、スバイリエンは、最も密度の高い州と言える。スバイリエン州は、7つの地方から成り、それらは80の地域に分けられ、さらにそれらが690の村に分けられる。村民の大部分は、農業に従事し、その大半が小規模農家である。地方によって異なるが、平均的な農地の規模は、0.95から2.00ヘクタール、米の収穫高の平均は、1ヘクタールにつき1.33トンである。

プロジェクト対象地域は、西をプレイベン州、南をベトナムと接する州の南西に位置するスバイチュルン地方にあり、12村がチューティール地域に、2村がダンサ地域にある。スバイチュルンの農業者は、平均して1.15ヘクタールの農地を所有している。それら14村全てが灌漑されていなく、乾燥しやすく、その地域の農業者の多くは、年1回雨季に米を収穫する。プロジェクト対象地域の人々は、米の生産に加え、家畜の飼育、野菜や果物の栽培、農業に関する労働や土木作業をしている。

注1 スバイリエン **Seila** 活動計画と予算 2004 より

III. プロジェクト活動

1. 土台作り

2003年、IVYは活動の開始前に、基礎調査を行った。IVYスタッフは、プロジェクト対象地域のランダムに選ばれた家庭を訪れ、彼らの生活状態を調べた。4つの村では、全家庭の30%が調査されたが、他の6つの村では10%の家庭にすぎず、計286家庭が調査対象となった。プロジェクト対象地域の農業活動の状況を調査するため、2004年5月から8月の間に別の調査が行われた。12村の30%の家庭(572家庭)がIVYスタッフによって調査された。

2003年8月から10月の間、各村の村長と相談の上、村規模でワークショップが行われた。ワークショップは、男性と女性の両方を対象とし、そこでは、プロジェクトの目的が発表された。ワークショップには、8村で622人が参加した。他の6村では、プロジェクト開始前に村ごとにワークショップが行われた。

ワークショップの後、村の全ての女性を対象として、5回に分かれた住民参加型手法ワークショップが行われた。IVYスタッフに促され、村の女性達は、「村の地図作成」、「村の歴史」、「問題認識」、「問題解決」、「村の夢」を通して、自分たちの生活環境を見直し

た。

2. 女性相互扶助グループ活動

続いて、各プロジェクト対象地域において、「お互いに助け合う」とは何を意味するのかを考えたり、女性相互扶助グループを結成する可能性を話し合ったりする、女性を対象としたワークショップが行われた。10村で548人の女性が参加した。2004年3月末までに、10村で46の女性相互扶助グループが結成された。2004年12月末には、女性相互扶助グループ数は58に増え、メンバーは計578名となった。

IVY スタッフに促され、女性相互扶助グループのメンバーは、リーダーと副リーダーを選出し、グループ規則を決めた。彼らは、月に1度集まり、情報交換をしている。各メンバーは、ミーティングに月々の貯金(500リエル、または1,000リエル)を持ち寄る。リーダーはそれらのお金を安全な場所に保管し、残高を記録している。同時に、2003年12月から2004年4月にかけて、各村で女性相互扶助グループのリーダーと副リーダーを対象に、6回のリーダーシップトレーニングが行われた。リーダー達は、ワークショップで学んだノウハウを(ミーティングスケジュールを決めたり、月例ミーティングを行ったりする、など)、実際に女性相互扶助グループの運営に応用し始めた。

5月より、女性相互扶助グループのメンバー全員に、栄養、家庭菜園、養鶏、養豚の4つの基礎トレーニングが提供された。トレーニング終了の直後に、全ての女性相互扶助グループがIVYの経済的支援の下、貯金でメンバー1人につき鶏1羽を買った。

表1：基礎トレーニングへの参加率

コース名	参加者数	参加率
栄養	405	80.8%
家庭菜園	467	93.4%
養鶏	365	72.9%
養豚	367	73.3%

10月と11月には、女性相互扶助グループの研修旅行が3回行われた。106名のメンバーが見学者として、その他多くは主催者として研修旅行に参加した。あるプロジェクト対象地域からの参加者が、他のプロジェクト対象地域を訪れたが、彼らは研修旅行が行われた村の家庭を見学しただけではなく、他の参加者や主催者である女性相互扶助グループのメンバー達と、女性相互扶助グループや生活状況に関する考えを共有した。

3. 村の女性組合活動

2003年12月と2004年1月に2つの村でそれぞれ、女性組合評議会選挙が行われた。

2004年10月末までに、女性組合結成ワークショップがさらに10村で行われ、男性78名を含む968名が参加した。続いて、2004年10月から12月の間に、それら10村で、村の教師やアチャー（檀家総代のようなもの）、村開発委員会メンバーなどの村の権威者から成る選挙管理委員会の主催により、女性組合評議会選挙が行われた。1つを除く全ての選挙の投票率は、60%を上回った。

女性組合が早く結成された2つの村では、農業学習グループが7月に作られ、メンバーは54名となった。その両方の村で、10月に稲作、家庭菜園、家畜の飼育に関するトレーニングが始められ、4ヶ月続いた。トレーニングに加え、選ばれたメンバーを対象に、農業学習グループの研修旅行が行われた。参加者は、スバイリエン州のロマエスハエク (Romaes Haek) 地方にある、Care Cambodia のプロジェクト現場を訪れた。

一方で、前述の2村の女性組合はまた、鶏銀行を始め、2村でそれぞれ37名、47名が参加した。

IV. 評価調査

1. 中間評価調査の範囲

中間評価調査では、査定内容の量よりも質を重視した。プロジェクト概要表に基づいて、プロジェクトの関連性、効果、能率、期待される影響力、持続性を査定することに加え、プロジェクト対象者がプロジェクト活動に参加するか否かの決定の要素となる、彼らの動機や期待を理解するために、現地調査も行った。プロジェクトが現行であること、多くの活動、特に女性組合や農業学習グループの活動が始まったばかりであることを考慮に入れ、評価の範囲は、以下の質問に狭められた。

- 1) 村の女性は、積極的に女性相互扶助グループの活動に参加しているか。
- 2) 農業学習グループ結成の手順は適切だったか。
- 3) IVYの活動は、村の人々にどう受け止められているのか。

質を重視した査定に加え、プロジェクト概要表に記された以下の指針の達成度も再調査された。

- 1) 村の家庭の少なくとも30%の女性が、住民参加型手法や女性相互扶助グループワークショップに参加する。
- 2) 村の家庭の少なくとも60%の女性が、女性相互扶助グループに参加する。
- 3) 女性相互扶助グループの少なくとも50%が、メンバーのために収入を得ることに成功する。

- 4) 女性相互扶助グループの少なくとも 50%が、4ヶ月間活動を続ける。
- 5) プロジェクト対象地域の全ての村で、成功例の模倣が見られる。
- 6) 村の家庭の少なくとも 60%の女性が、女性組合評議会選挙に参加する。

2. 調査方法

評価調査は、2005年2月と3月に行われた。調査は、以下の方法を用いて行われた。

- 1) 中心グループへのインタビューや話し合い
少数の中心グループが作られ、IVY スタッフの支援の下、調査質問に関して話し合いが行われた。
- 2) 既存の文書の再確認
女性相互扶助グループ進捗状況記録や、女性組合評議会選挙記録、農業学習グループトレーニング記録などの既存の資料からデータが収集された。
- 3) 文献の再確認
関連のある文献を必要に応じて見直した。

3. 中心グループへのインタビュー/話し合い

調査チームによって、10人が選ばれ、以下の14グループそれぞれに加わり、インタビューを受け、グループのメンバーと話し合いをするよう求められた。中心グループを構成するこれら10名は、同じ村の人々である。中心グループへのインタビュー/話し合いに関するワークショップは、プロジェクト対象地域の9村で行われた。調査チームは、村長や女性組合評議会と話し合った上、中心グループのメンバーを、可能な限り、同年代で経済状況も似ている人々にした。

表2：中心グループ

	プロフィール	主な質問
グループ A	女性相互扶助グループ非メンバー	なぜ女性相互扶助グループに参加しないのか。
グループ B	女性相互扶助グループ非メンバー	なぜ女性組合選挙に参加するのか。 IVYについてどう思うか。
グループ C	女性相互扶助グループメンバー	なぜ女性相互扶助グループに参加するのか。
グループ D	女性相互扶助グループメンバー	なぜ女性組合選挙に参加するのか。 IVYについてどう思うか。
グループ E	農業学習グループメンバー	どのようにして農業学習グループのメンバーとして選ばれたのか。

グループ F	農業学習グループメンバー	なぜ農業学習グループに参加するのか。
グループ G	農業学習グループ非メンバー、女性組合メンバー	なぜ農業学習グループに参加しないのか。
グループ H	農業学習グループ非メンバー、女性組合メンバー	農業学習グループのメンバーは、どのようにして選ばれたと思うか。
グループ I	村の男性	IVY についてどう思うか。 彼らの家族はなぜ女性組合に参加しないのか。
グループ J	村の男性	
グループ K	実践している女性相互扶助グループメンバー	なぜ基礎トレーニングで学んだことを実践するのか。
グループ L	実践している女性相互扶助グループメンバー	
グループ M	実践していない女性相互扶助グループメンバー	なぜ基礎トレーニングで学んだことを実践しないのか。
グループ N	実践していない女性相互扶助グループメンバー	

上記の通り、各カテゴリーに関して、2つの中心グループが作られた。2つの異なる村で、このように2つの中心グループが作られた。中心グループへのインタビュー/話し合いに関するワークショップでは、両方の村で同じ質問をした。

グループ A と B は、女性相互扶助グループ活動に参加していないが、女性組合評議会選挙に参加した女性から成る。グループ C と D のメンバーは、女性相互扶助グループ活動に参加し、女性組合評議会選挙にも参加した人々である。グループ E と F は、2つの村の6つの農業学習グループから選ばれた。グループ G と H は、女性組合メンバーであるが、農業学習グループのメンバーではない人々から成る。グループ I と J は、家族が女性相互扶助グループや女性組合に参加していない村の男性から成る。グループ K と L は、IVY のトレーニングで学んだ技術を実践している、女性相互扶助グループメンバーから成る。グループ M と N のメンバーは、IVY が提供したトレーニングに参加しているが、そこで学んだ技術を実践していない人々である。

中心グループへのインタビュー/話し合いに関するワークショップでは、司会者が質問をし、中心グループのメンバー間の話し合いを促進した。一方で、少なくとも2人の主催者が話し合いを見学し、盛り上げ、書記が人々の意見やその他の反応を記録した。

V. 調査結果

1. 関連性

農業部門の強化は、カンボジア王国政府 (the Royal Government of Cambodia) が促進している、主要な4つの分野の1つである。そこでは、農業の生産量増加と多様化が強調されている。従って、本プロジェクトの中心となっている活動の1つ、すなわち村の人々に農業の技術と知識を身につける機会を提供するということは、カンボジア王国政府の方針に一致している。

さらに、カンボジアでは女性が農業部門で主要な力を提供しているが、彼女達は限られた拡張サービス (extension services) が農業者に提供していることのほんの一部を得ているにすぎない、ということによく注目されている (注 2)。男性が、利用可能な拡張サービスの大部分を利用している一方で、女性は、子供の世話や食事の用意などの家事や、身体的、社会的な圧力によって行動を制限され、それらのサービスを十分に利用できていない。従って女性は、自分達の技術を磨く機会を奪われているのである。プロジェクトの焦点を女性に当てることにより、女性の農業者としての役割と、彼女達の情報や技術をより多く得る必要性との溝を直接的に埋めることができる。

注 2 世界銀行とアジア開発銀行の共同文書である「リソースの分配改善と組織改革によるサービスの促進(Enhancing Service Delivery through Improved Resource Allocation and Institutional Reform)」より

2. 効果

2.1. 村の女性を女性相互扶助グループ活動に参加させることによる効果

村の女性の女性相互扶助グループ活動への参加状況が、以下のプロジェクト概要表に記された規準に沿って調査された。

1) 村の少なくとも 30%の家庭の女性が、住民参加型手法や女性相互扶助グループのワークショップに参加した。

村のワークショップへの参加者は、それぞれが家庭の代表であるとみなすと、1,176 家庭を持つ 8 つの村の、計 622 名の参加者は、全家庭数の 52.9%を占めることになる。

住民参加型手法ワークショップに関しては、12 村で総計 1,656 名が参加した。平均で、456.8 名が 1 回のワークショップに参加したことになる。村単位では、平均で 51.4%の家庭が 1 回のワークショップに参加したブンカイが、参加者が最も多い村となった。一方でチュクソーでは、1 回の住民参加型手法ワークショップへの参加家庭は、11.8%にすぎなかった。総計 27.6%の家庭が、1 回の住民参加型手法ワークショップに参加したことになるが、その割合は、目標をわずかに下回った。

表 3：住民参加型手法ワークショップ：参加者数

	1	2	3	4	5	計	平均	# HH	%
ブンカイ	68	83	70	77	75	373	74.6	145	51.4
ケック	56	62	65	46	57	286	57.2	132	43.3
チュクソー	35	28	25	23	37	148	29.6	250	11.8
ニアレテン	42	47	35	52	57	233	46.6	230	20.3
プレイポー	35	46	42	52	39	214	42.8	160	26.8
プレイロカ	37	32	35	25	27	156	31.2	130	24.0
ロムデン	59	61	57	46	56	279	55.8	135	41.3
サンケイ	40	39	36	28	43	186	37.2	115	32.3
トゥロック	20	30	47	43	41	181	36.2	225	16.1
タレック	60	42	38	41	47	228	45.6	134	34.0
計	452	470	450	433	479	2,284	456.8	1,656	27.6

2) 村の家庭の少なくとも 60%の女性が女性相互扶助グループに参加する。

2004 年 12 月末の時点で、578 名の女性が女性相互扶助グループに参加した。各メンバーが 1 つの家庭を代表しているとみなすと、メンバーは、女性相互扶助グループ活動が行われている 12 村の全家庭の 30.4%を代表しているにすぎない。村ごとに見ると、その割合は、高い所でブンカイの 95.2%、低い所でサムロンの 12.3%と大きく異なる。

表 4：女性相互扶助グループメンバー数

	メンバー数	家庭数	家庭代表率 (%)
ブンカイ	138	145	95.2
ケック	67	132	50.8
チュクソー	41	250	16.4
ニアレテン	57	230	24.8
ブンコー	15	115	13.0
プレイポー	59	160	36.9
プレイロカ	53	130	40.8
ロムデン	40	135	29.6
サンケイ	41	115	35.7
サムロン	16	130	12.3
トゥロック	30	225	13.3
タレック	21	134	15.7
計	578	1,901	30.4

3) 女性相互扶助グループの少なくとも 50%が、メンバーのための収入を得ることに成功した。

2004 年 12 月末の時点で、どの女性相互扶助グループからも、メンバーのための収入を得ることに関する成功例は見られなかった。この 1 つの理由として、9 月に女性相互扶助グループの月々の貯蓄から買った雌鳥が生んだ雛が、市場で売るにはまだ小さすぎたことが挙げられる。一方で、1 月と 2 月に雛と雌鳥が何羽も死に、それにより、収入を生み出せる可能性は危険にさらされた。

しかしながら、女性相互扶助グループのメンバーの中には、基礎トレーニングで得た技術や知識を生かして、家庭菜園で育てた野菜から収入を得ることに成功した者も少数いた。収入はわずかで、トレーニングの効果を測るのは難しいが、野菜の栽培から収入を得る人々は、それを継続する傾向にある。従って、基礎トレーニングがなかったら、彼らは収入を得ることができたか、ということを見極めることは不可能である。

3) 女性相互扶助グループの少なくとも 50%が 4 ヶ月間活動を続ける。

58 の女性相互扶助グループ全てが、活動を開始時から継続しているが、その多くは、2003 年 12 月より、1 年以上も活動を続けている。新しく結成された他のグループも、半年以上活動を継続している。

一方で、2004 年 7 月より、貯蓄活動が断続的になったグループも出てきた。つまり、全てのグループが毎月貯蓄を継続しているというわけではない。これは、米の生産時期のサイクルと関係する。農業者が雨季の初めの 6 月や 7 月に、米の生産の準備を始めると、化学肥料など、農業に必要な出費が嵩む。従って、女性相互扶助グループの貯金となるはずだったわずかなお金は、農業に必要な物を購入するために使われることになる。月々の貯金を怠るグループは、2、3 村に集中する傾向にある、ということにも注目すべきである。これは、これらの村で、女性相互扶助グループ活動への興味が、メンバー間で薄れてきていることを暗示しているのかもしれない。

さらに、最近、月例ミーティングを行っていないグループが見られるようになった。女性相互扶助グループのメンバーの中には、数ヶ月貯蓄をして鶏を買ったにもかかわらず、養鶏から収入を得ることができなかったことに失望している者も少数いる。この失敗により、メンバーの中には、グループ活動から生み出される利益が、月例ミーティングや貯蓄など、女性相互扶助グループの維持に必要とされる活動に見合っていない、と感じる者もいたのかもしれない。

5) プロジェクト対象地域の全ての村で、成功例の模倣が見られる。

基礎トレーニングや農業学習グループトレーニングを通して、IVY が促進している技術の模倣に関しては、成功と失敗の両方の結果が見られる。インタビューした多くの女性

は、IVY が普及したトレーニングの内容を正確に覚えていたが、それを実行に移すことになる、上手く真似できた女性から、全くできなかった女性まで、結果は様々であった。

ノウハウを実践しなかった人々は、インタビューで、水や、家庭菜園技術を持った人材に欠けていた、また、家畜の間で病気が蔓延し、家畜飼育の技術がないために、それを食い止めることができなかった、と答えた。また、インタビューを受けた人々の中には、生活が貧しく、収入が低いことを挙げ、真実かどうかは分からないが、知識を実践するには、ある程度の物が必要であることを暗示した者もいた。

IVY によって伝えられた技術やトレーニング内容を実践した人々の多くは、IVY スタッフにより個別に家庭を訪問され、助言を受けた、と述べた。ある女性は、自分の家庭に IVY スタッフが訪れ、ノウハウを説明してくれることにより、技術を忘れることを防ぐことができるし、それは「包丁を研ぐ」ようなものだ、と述べた。

学んだ技術を実践しなかった人々は、トレーニングに参加した後、IVY スタッフから追加情報を得ることは一度もなかった、と述べた。ある女性は、「もっと頻繁に家に来て、私たちに説明したり、種を持ってきてたりして下さい。」と言った。「頻繁に来て、刺激を与えて下さい。」と IVY に頼む女性もいたが、おそらく、彼女達は激励を必要としている、という意味だったのだろう。

6) 女性組合評議会選挙に、村の少なくとも 60% の家庭の女性が参加する。

前述の通り、女性組合評議会選挙が行われた 10 村で、1 つを除く全ての選挙において、村の有権者の 60% 以上が投票に出向いた。唯一の例外はニアレテンで、そこでは、10 村の中で最も早く選挙が行われた。ニアレテンでの経験から学んだことは、投票率を高めるには、集中的に情報を広める努力が不可欠である、ということである。

表 5：女性組合選挙

村名	選挙日	成人女性数	欠席者数 (村外での仕事 /生活)	実投票者数	投票率	候補者数	当選者数
ニアレテン	29 Sep	325	44	140	49.8%	11	7
ブンカイ	16 Nov	200	49	132	87%	14	7
プレイポー	14 Nov	250	71	121	67.6%	9	5
チュクソー	7 Dec	414	69	239	69.6%	14	9
タレック	19 Nov	151	26	99	79%	14	7
プレイロカ	9 Dec	189	36	147	96%	12	7
ケック	2 Dec	200	54	141	96.6%	13	7
サンケイ	8 Dec	163	40	106	86%	8	5

トゥロック	14 Dec	351	115	222	94.6%	15	7
ロムデン	16 Dec	175	67	108	100%	10	5

2.2. プロジェクト対象者への情報伝達

女性相互扶助グループ活動への参加の多くの理由が、メンバーによって述べられた。何人かは、より多くの技術を身につけたいから、と答えた。参加の動機として、「同情し合い、お互いに助け合うこと」、すなわち、地域内での相互支援を挙げた者もいた。一方で、どんな種類の利益かは明確にしなかったが、「IVYからの利益」を期待していた、と延べた者もいた。

IVYの支援による活動に参加したことのない人々はインタビューで、世話をしなくてはならない小さな子供がいる、時間がない、貯金ができない、招待されていない、または情報が届かなかった、などと述べた。女性相互扶助グループに初めは参加していたが、IVYからすぐに物質的な支援がないことを知ると、沈黙のうちに去る者も少数いた。それにもかかわらず、家族が活動に参加していない男性を含め、インタビューを受けた人々の多くは、IVYの活動に対し、良い理解を示した。

さらに、女性組合選挙での予想以上の投票率は、より広い範囲における情報の流布を効果的に達成することができたことを示している。

インタビューを受けた人々の多くは、選挙の情報を、IVYからだけではなく、村長や女性相互扶助グループメンバーからも得ていた。この経験は、村民同士の情報伝達網は、プロジェクト対象者に情報を伝えるための効果的な手段であることを証明している。

2.3. 農業学習グループ結成の適切な手順

農業学習グループは、選ばれた手順を経て、プロジェクトの枠内で結成され、支援される唯一のグループである。農業学習グループ活動の概要が説明され、参加者が農業活動の特定の分野を優先的に学習する、農業学習グループ結成ワークショップに続き、村の女性は、1つ以上のグループに登録するよう求められる。登録リストは、一定基準に基づいて、IVYスタッフと女性組合評議会メンバーによって確認される。選出された農業学習グループメンバーは、農業学習グループミーティングや、その後のトレーニングに招かれる。

農業学習グループに参加している人々と参加していない人々では、農業学習グループ結成の手順に関する認識のレベルに差があることは明らかだった。インタビューを受けた農業学習グループメンバーは、十分な時間や能力、知識、興味、経験、経済力を持つ人々の中からメンバーが選ばれた、と述べた。彼らは、ミーティングで、または女性組合評

議会メンバーから、農業学習グループ結成に関する情報を得ていた。

対照的に、農業学習グループ非メンバーは、農業学習グループに関する詳しい情報は一切得られず、農業学習グループのメンバー選出に関して何も知らない、と主張した。一方で、村長が農業学習グループ結成ミーティングに関して、前もって告知したことを認めた女性もいた。グループ選択の基準について尋ねられたある女性は、分からない、と答え、別の女性は、メンバーが条件の良さに基づいて選ばれているということは信じられない、という意味を込めて、「えこひいき」であると答えた。非メンバーの中には、機会があれば農業学習グループに参加したい、と答え、IVY に対し、拡声器やちらしを使用し、村長、女性組合評議会、IVY を通してより多くの情報を伝えるよう提案した者もいた。

グループ結成の手順はさておき、農業学習グループのメンバーに選ばれた人々は、より集中力が高く、期待する内容も明確であるように思われる。例えば、ある女性は、「家畜飼育の知識のギャップを埋めたい」と述べ、別の女性は、「自分が使っている昔ながらの手法と、最新の技術とを比べてみたい」と述べていた。

3. 能率

3.1. プロジェクト対象者への情報伝達

プロジェクト開始から 2004 年 12 月末までに行われた活動は、IVY スタッフによって準備され、実施された。すなわち、IVY とプロジェクト対象者の間で、能力拡大の努力のみならず、情報伝達が行われたことになる。地域開発活動を担うカンボジア人スタッフは、1 人につき 3～4 村を担当し、現場で相当な時間を費やし、村の権威者と活動の調整を行っただけでなく、個別に家庭を訪問し、村の女性と友好的で信頼の置ける関係を築く努力をした。これによって、プロジェクトの効果が高められたように思えたが、プロジェクト活動への参加者数などから分かる、情報伝達の度合に関する能率は、前述のように限られたものとなった。農業活動に関しても、同じことが言える。3 人の常勤、1 人の非常勤カンボジアスタッフは、総計で 2 村の 60 名に対してトレーニングを行ったにすぎなかった。

一方で、プロジェクト全体の能率は、未だ完全には測られていないのでは、との声も上がるかもしれない。実際に、プロジェクト活動の後半において、能率が著しく上がることが期待されている。その理由は 2 つある。1 つ目は、未だにプロジェクトを信頼していない女性がいるということにある。そのような女性達は、プロジェクトに完全に参加するかどうかを決めるにあたって、IVY による活動や利益がどのようなものであるかを観察している状態にある。女性相互扶助グループや女性組合の活動開始時点では、少数の熱意を持った女性のみが積極的に参加し、その他多くは、新しい活動に対してより慎重な態度を示す。IVY は物質的な支援はせず、人材の育成に力を入れていることを考慮すると、村民の信頼を得るには時間がかかることが予想される。

2つ目の理由は、プロジェクト活動後半で、村民同士の情報伝達がよりスムーズになり、能力拡大に関する活動もより多く行われることにある。村民同士の繋がりを広げること、より多くの人々への情報伝達と、彼らの地域開発への参加が期待される。

プロジェクト開始時から村民同士の繋がりを利用していかどうかということは、現時点では答えにくい問題である。それにより、より多くの村民への情報伝達が可能になることが期待される一方で、それに頼らずに地道な努力をしていくことは、1) プロジェクト現場のスタッフと村の女性の間信頼関係を築くために、2) 時間と努力を惜しまず、将来「中心グループ」としての活躍が期待される少数の女性の能力を高めるために、3) 中心グループを支援することにより、彼らに将来、女性組合のような地域を基盤とする組織の運営を完全に任せられるようにするために、不可欠であろう。従って、プロジェクト開始時にこうした努力が必要となるため、プロジェクト完了時の評価に比べ、中間評価で見られる能率がいくらか低いことになる。

3.4. 物質提供の効果

プロジェクト開始時から 2004 年 12 月まで、プロジェクト活動において以下の物質提供が行われた。

表 6： 提供物

グループ	項目	備考
人材	日本人プロジェクトスタッフ 2 名	
	カンボジア人プロジェクトスタッフ 9 名	うち 2 名は 2004 年 4 月より勤務
	日本人有給ボランティア 1 名	
	カンボジア人非常勤スタッフ 1 名	
女性相互扶助グループへの物質提供	菓子	
	ノート、ペン	リーダーと副リーダーへ
	野菜の種 鶏	基礎トレーニングの参加者へ 月々の貯蓄の補足として
女性組合への物資提供	菓子	
	Tシャツ	選挙管理委員へ
	Tシャツ	女性組合評議会メンバーへ
	文房具	女性組合評議会メンバーへ
	ワークショップ必需品	女性組合ミーティングへ
	ビニールシート 竹製のテーブルとイス	女性組合ミーティングへ 女性組合評議会ミーティングへ
農業学習グループへ	菓子	

の物質提供	野菜の種	
	肥料入れ	
	米の種/野菜の種/鶏	
	その他の道具	

上の表から分かるように、プロジェクト対象者への直接的な物質提供は、慎重に制限されている。インタビューを受けた女性の多くは、この事実には不満を抱いている様子だった。女性相互扶助グループのある活動熱心なメンバーは、彼女はよく隣人に、女性相互扶助グループメンバーは、IVY から何も与えられていないと馬鹿にされる、と言った。同様に、ある農業学習グループメンバーは、「IVY はとてもけちだ、と言う人達もいるんですよ。」と不満を言った。また、他の女性は、IVY の活動は「謎めいていて、どんな支援をしているのかははっきりしない」と言うが、それは、「人道支援に対し、やる気が感じられない」と解釈されてしまいがちである。もう1人の女性は、「批判する人々を打ち負かしたい」ので、IVY は「大きなつぼ」のような、「何か目立つ物を買うべきだ」と提案した。別の女性は、待ち続けても「何も見えてこない」し、IVY は自分の助けとなるのか分からないので、もうこれ以上IVY の活動に参加したいとは思わない、「あなた方 (IVY) はなぜ私を失望させるの。」とまで言った。

さらに、IVY の支援による活動に家族が参加したことの無い男性は、「組織というものは、発展を目指すものなのに、なぜ女性相互扶助グループメンバーに、自分たちのお金を使わせて、IVY は資本を提供しないのか。」他の男性は、彼の妻が女性相互扶助グループに参加したが、後に「何ももらうことができなかった」ので退会した、と述べた。

IVY は、人々にお金を貸さず、女性たちにノウハウを教えたので、良い組織だ、と述べた女性相互扶助グループのメンバーもいたが、限られた物質提供に対し前向きな姿勢をとっている人々は、ごく少数にすぎない。短期的に見ると、物質提供をほとんど行わないことにより、多くの村民の興味を惹きつけることは、難しいと感じられるかも知れない。長期的に見て、村民の利益となるような物質提供によって、より多くの参加者を惹きつけることは、プロジェクト対象者にとって良いかどうか、ということに関しては調査中である。

4. 影響力

4.1. 観察された影響力

女性の意識の高まり

女性相互扶助グループや女性組合の活動は、女性達がより大きな自信を持つようになる、よい機会となったようだ。IVY により何を与えられてきたか、と尋ねられると、女性相

互扶助グループメンバー達は、「精神力を鍛えられ、知識を与えられた」と答えた。IVYは、物質提供に関してはあまり寛大ではないと知られているが、メンバーの中には、プロジェクトは「女性に、生活状況について教えてくれた」と感謝の言葉を述べた者もいた。女性たちの意欲が最も見られたのは、女性組合選挙の時だった。候補者の多くが、どのようにして自分たちの村を発展させたいのか、について演説を行った。女性相互扶助グループのメンバーではないが、多くの女性達が、「優れたリーダーがほしい」、「リーダーがいると、情報伝達がよりスムーズになる」などの理由から、投票場に足を運んだ。インタビューを受けた女性は、村民は、「女性組合活動を通して、自分達の村の生活水準が改善される」ことを希望している、と述べた。村民の期待が大きいのには確かであり、以前に比べ、地域中心の活動に対する彼女達の認識も高まってきているようである。村の女性が、地域開発において、より大きな役割を担うことを希望していることに関しても、機会があれば話し合われるであろう。

開放的な選挙手順への理解

選挙管理委員会メンバーの間で、「公平で開放的な」選挙への理解が高まったことは、予想外の効果だった。選挙管理委員達は、女性組合評議会選挙の手順を決定した選挙管理委員会ミーティングに従って、民主主義の選挙手順についての理解を深めていった。前述は、データに基づく事実ではないが、IVY スタッフは実際、選挙管理委員達の、民主主義の選挙に関して理解に欠けている状態から、女性組合評議会選挙に対する責任感と誇りに満ちた状態への変化を観察した。

食品安全と農業

成功例は2, 3件あるが、それらは特にプロジェクト対象地域内の、女性相互扶助グループメンバーの家庭菜園において見られた。「IVY から学んだことを試してみたかった」人々はたいがい、以前よりも収穫量が増えた。家畜の飼育においては、IVY のトレーナーからの養鶏に関する助言に従った、と数名の女性が述べた。鶏がどんどん成長したと述べた女性も数名いたが、その他多くの女性は、鶏が病気になり死ぬことを防ぐことができなかったと言った。実際に、女性相互扶助グループの運営状況に関する質問をされると、何人かの女性は、家畜飼育において、病気は主要な問題であると述べた。さらに、村民への技術の普及は、課題として残されている。ある女性は、学んだ技術や知識を隣人に広めようとしたが、「何も実行に移されていないようだった」と述べた。

農業学習グループメンバーの間では、少しずつ彼女達の姿勢に変化が見られた。メンバー数人は、必ずしもすぐに効果は現れなかったものの、有機肥料や液体肥料を作り始めた。農業学習グループトレーニングが、長期的な農業活動への参加者の姿勢に、具体的な影響を与えたと結論づけるのはまだ早いですが、持続可能な農業の土台作りはできたと言ってもよいだろう。

4.2. 期待される影響力

前述のように、女性相互扶助グループや女性組合、農業学習グループの活動を通して、村民同士の伝達網がより拡大すれば、実際の伝達網とその効果は、プロジェクト活動後半において、影響力を持つであろう。具体的な例として、農業学習グループのメンバーによる農業技術や知識の普及や、女性相互扶助グループメンバー間での、そのような情報の交換などが挙げられる。

5. 持続性

プロジェクトの枠内で始められた、活動や組織の持続性を完全に測るのは、まだ早すぎるであろう。しかし、実際、良い兆候もいくつか観察されている。

前述の通り、村の女性は、村に基盤を置く組織を持つことに興味があり、切望していることが分かった。女性に焦点を当てることは、プロジェクト改革での変更点において、論争を引き起こす重大な事柄の1つであった。公平で開放的な選挙により信頼の置けるリーダーを選びたいという村の女性達の熱意からは、女性達は、自分たちの問題点を提示し、必要性を満たし、熱望に気付いてほしい、ということ強く願っていることが分かる。従って、女性達が、そのような気持ちで、女性組合活動を発展させていこうとしている様子が窺える。しかしながら、ここである1つの問題点に注目しなくてはならない。村に基盤を置く組合やグループは、運営費を賄うのに十分な資本がなければ、活動を継続することができないのである。

女性相互扶助グループは、活動の持続性に関して、より多くの問題に直面している。女性相互扶助グループは、女性組合よりも規模が小さいので、メンバーが出稼ぎなどで村外に行ってしまうことが、グループの勢いに非常に影響するのである。メンバーの貯金を基にした初めての女性相互扶助グループ活動である養鶏は、鳥コレラと疑われるものの影響により、成功していない。さらに、女性相互扶助グループメンバーの多くは、米銀行のような女性組合の新しい、中規模の活動をするために、彼女達にとってそれほど重要ではない女性相互扶助グループの貯蓄活動を後にし、女性組合に参加し始めた。

しかしながら、女性相互扶助グループが本来持つ価値もある。インタビューを受けたある女性は、かつては金利が変動しやすく、借金をするのが難しかったが、今では、金利なしで女性相互扶助グループから借金ができる、と述べた。他の女性は、お金を持っていて、貧しい人々が困っているときに、貯金を利用して助けてあげることができる女性もいる、と共鳴した。さらに、女性相互扶助グループは、農業技術の普及活動が始まると、理想的な情報伝達網を提供してくれる。

農業学習グループ活動は2つの村で始まったばかりなので、その持続性に関しては今後観察していく必要がある。農業学習グループのメンバーの中には、学んだノウハウを生かし続け、新しいアイデアを試してみようとする態度を取る者さえ出てくるかもしれない。しかしながら、農業者間の情報と技術の普及となると、技術的にも経済的にも大きな助力が必要となる。